

2021年度までの 放射性固体廃棄物等の想定保管量の反映について

2020年 3月12日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. 一時保管エリアの新設・変更・廃止について

- 新設(一時保管エリア)
無し

- 変更(一時保管エリア)
無し

- 廃止(一時保管エリア)
無し

2. 瓦礫類の想定発生量と保管容量の比較について（線量区分毎）

以下のとおり瓦礫類の線量区分毎の想定保管量に対して保管容量は満足している。

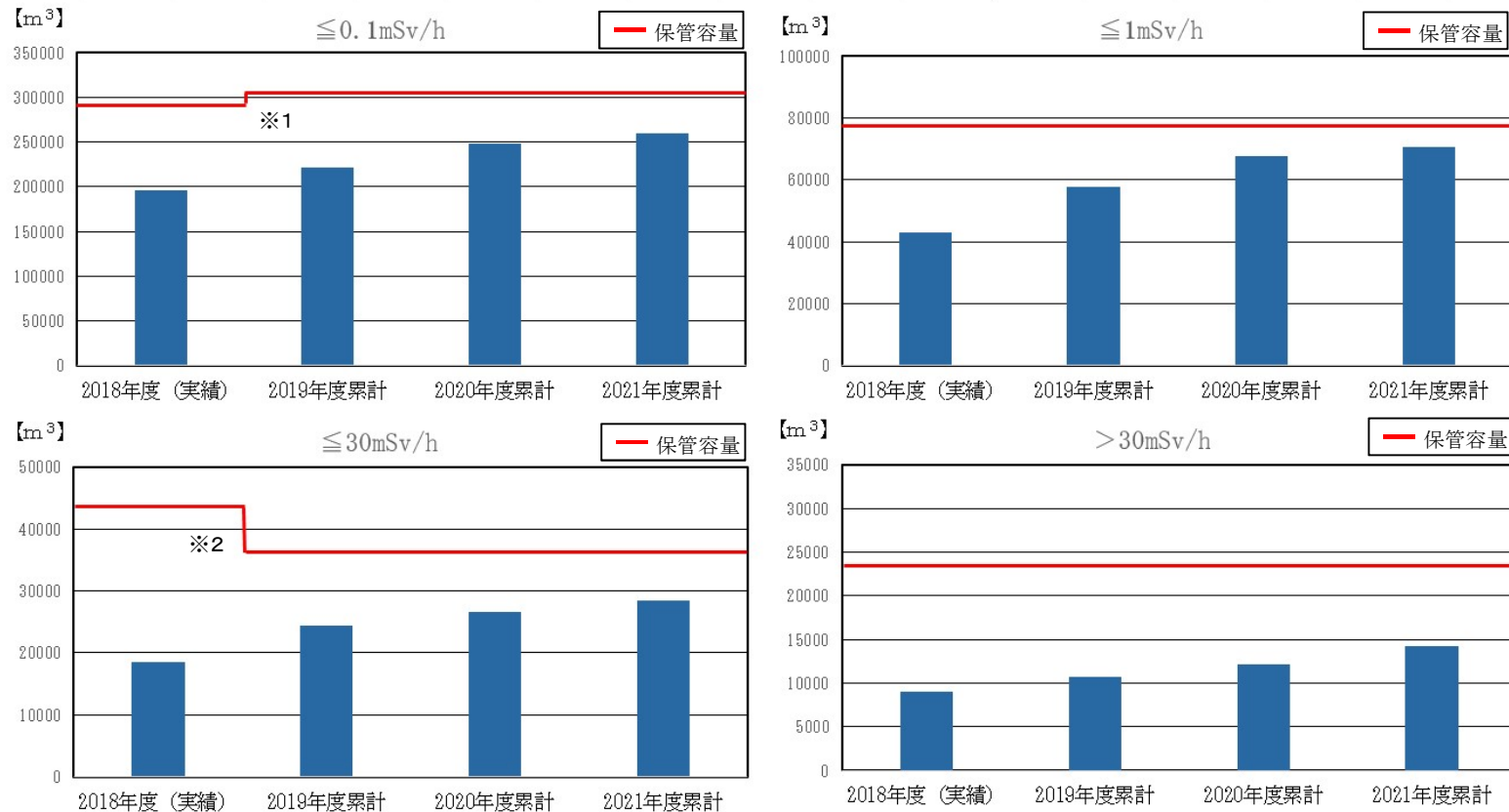


図1 瓦礫類の線量区分毎の想定保管量と保管容量の比較

- ※1 一時保管エリアA1,A2のケース切り替えによる保管容量増加
- ※2 一時保管エリアA1,A2のケース切り替えによる保管容量減少
- ※ 固体廃棄物貯蔵庫第9棟の保管容量は容器収納での保管を前提に、8,400 m^3 /階で想定

3. 伐採木・使用済保護衣等・放射性固体廃棄物の想定発生量と保管容量の比較について

以下のとおり伐採木の想定保管量、使用済保護衣等の想定保管量及び放射性固体廃棄物の想定保管量に対して保管容量は満足している。

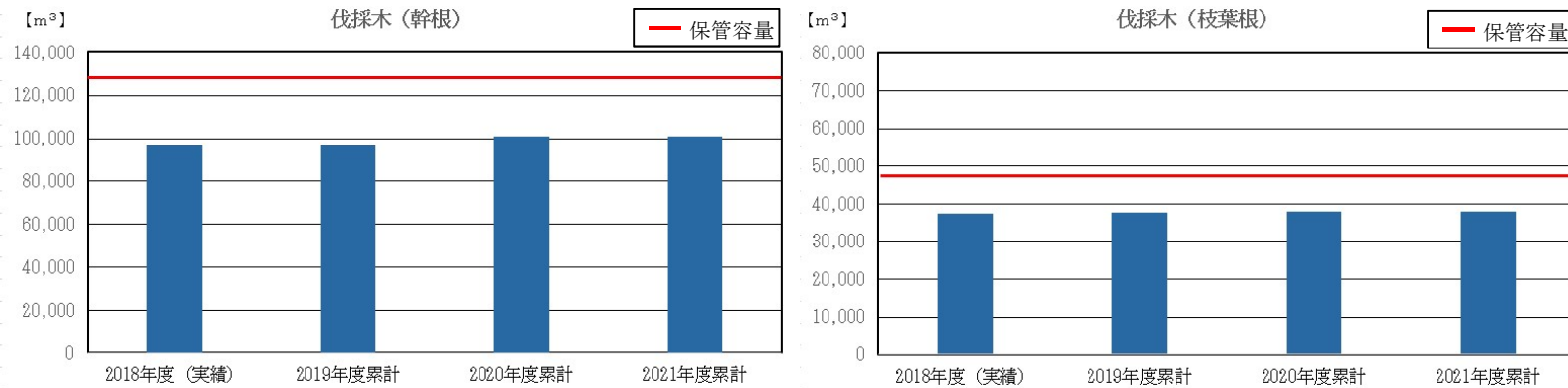


図2 伐採木の想定保管量と保管容量の比較

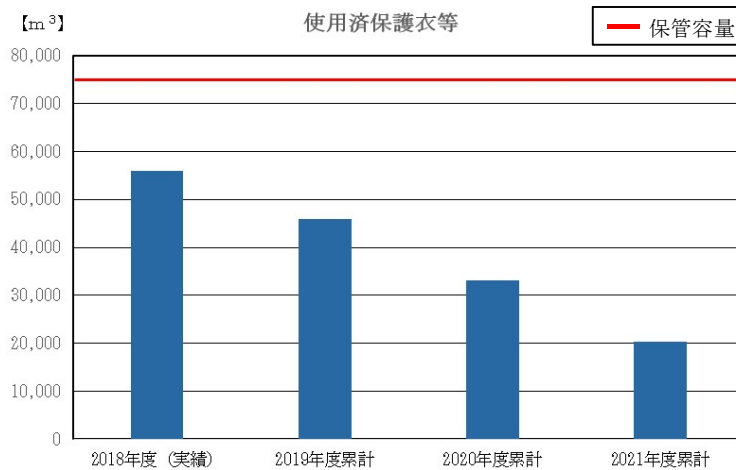


図3 使用済保護衣等の想定保管量と保管容量の比較

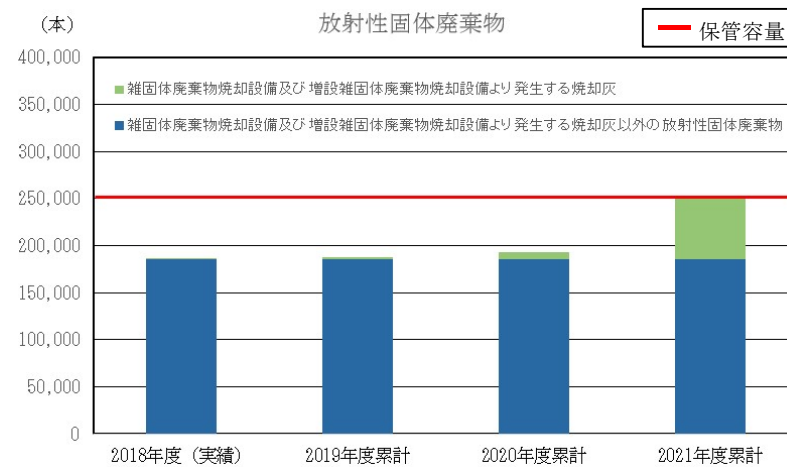


図4 使用済保護衣等の想定保管量と保管容量の比較

4. 瓦礫類の発生量について

- 想定保管量の算出方法は、以下により算出
 (2018年度の保管実績)+(2019~2021年度の発生予測量)
 発生予測量:3年間で計画されている作業での発生量を主管Gより集計し、
 固体廃棄物管理Gで確認
- 各年度における想定発生量は、以下に記載
 2019年度:47,900m³、2020年度:40,100m³、2021年度:19,300m³
- 各年度における想定発生量の多い作業について、次ページ以降に記載

表1 想定保管量の内訳(瓦礫類)

線量区分 (mSv/h)	≤0.1	≤1	≤30	>30	合計※
2018年度 (実績)	195,500	43,100	18,500	9,000	266,100
2019年度累積	221,300	57,600	24,400	10,700	314,000
2020年度累積	247,600	67,800	26,600	12,100	354,100
2021年度累積	260,100	70,700	28,500	14,200	373,400

+47,900m³
 +40,100m³
 +19,300m³

※端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

4. 瓦礫類の発生量について

- 各年度における発生量の多い作業は以下の通り
- タンク関連工事や1～4号機関連工事による発生が多い

表2 想定保管量の内訳(瓦礫類)

単位:m³

		≦0.1mSv/h		≦1mSv/h		≦30mSv/h		>30mSv/h	
		件名	物量	件名	物量	件名	物量	件名	物量
2019 年度	①	フランジタンクの減容作業	8,300	2号機周辺建屋屋根面雨水対策	2,500	2号機周辺建屋屋根面雨水対策	1,000	1号機オペフロ瓦礫撤去工事	500
	②	G4エリアタンク関連工事	1,500	H4北エリアタンク関連工事	1,400	3号機Rw/B上屋瓦礫撤去	600	3号機使用済燃料関連作業	200
	③	Eエリアタンク関連工事	1,500	1～4号機T/B東側構内整備工事	700	Eエリアタンク関連工事	600	2号機R/B防水性向上対策工事	200
2019年度想定保管量									47,900

4. 瓦礫類の発生量について

		≤0.1mSv/h		≤1mSv/h		≤30mSv/h		>30mSv/h	
		件名	物量	件名	物量	件名	物量	件名	物量
2020 年度	①	2号機使用済燃料関連工事	21,600	2号機使用済燃料関連工事	1,400	1号機オペフロ瓦礫撤去工事	300	1号機オペフロ瓦礫撤去工事	500
	②	防火帯除草業務	6,500	5・6号機重油タンク油流出対策工事	1,300	4号機R/B防水性向上対策工事	200	2号機PCV内部調査	200
	③	フランジタンクの減容作業	5,200	入退域管理棟建替工事	1,300	Eエリアタンク関連工事	100	2号機R/B防水性向上対策工事	100
	2020年度想定保管量								
2021 年度	①	フランジタンクの減容作業	4,500	3, 4号機T/B防水性向上対策工事	500	2号機使用済燃料関連工事	900	1号機オペフロ瓦礫撤去工事	2,000
	②	防火帯除草業務	1,200	G4エリアタンク関連工事	300	1号機オペフロ瓦礫撤去工事	200	H9・H9西エリアタンク関連工事	50
	③	構内一般廃棄物回収	900	使用済保護衣等保管業務	200	H9・H9西エリアタンク関連工事	200	3号機PCV内部調査	20
	2021年度想定保管量								

5. 伐採木の発生量について

- 想定保管量の算出方法は、以下により算出
(2018年度の保管実績)+(2019～2021年度の発生予測量)
- 各年度における想定発生量は、以下の通り
2019年度:600m³、2020年度:4,100m³、2021年度:200m³

表3 想定保管量の内訳(伐採木) 単位:m³

	幹根	枝葉	合計※
2018年度(実績)	96,600	37,400	134,000
2019年度累積	96,900	37,700	134,600
2020年度累積	100,800	37,900	138,700
2021年度累積	100,900	38,000	138,900



※端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

- 2020年度JAEA分析研究施設敷地造成で発生した伐採木を一時保管することによる増加
- その他の件名は、100m³以下の物量の件名が多数(除草・除伐作業等)

6. 使用済保護衣等の発生量について

- 想定保管量の算出方法は、以下により算出
 $(2018\text{年度の保管実績}) + (2019\sim 2021\text{年度の発生予測量}) - (\text{焼却量})$
 発生量予測量：過去の入域者数の実績をもとに算出
 焼却量：焼却炉の運転計画をもとに算出
- 各年度における想定発生量は、以下の通り
 2019年度： $-10,100\text{m}^3$ 、2020年度： $-12,800\text{m}^3$ 、2021年度： $-12,700\text{m}^3$

表4 想定保管量の内訳(使用済保護衣等) 単位： m^3

	使用済保護衣等	
2018年度(実績)	56,000	
2019年度累積	45,900	
2020年度累積	33,100	
2021年度累積	20,400	

※端数処理で 100m^3 未満を四捨五入している。

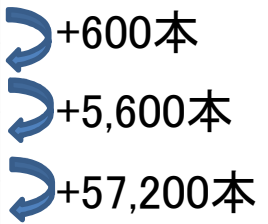
- 焼却に当たっては、カバーオール以外のもの(ゴム手袋等)も合わせて焼却を実施している

7. 放射性廃棄物の発生量について

- 想定保管量の算出方法は、以下により算出
(2018年度の保管実績)+(2019～2021年度の発生予測量)
- 各年度における想定発生量は、
2019年度：600本、2020年度：5,600本、2021年度：57,200本

表5 想定保管量の内訳(放射性廃棄物) 単位:本

	雑固体廃棄物焼却設備より発生する焼却灰※1	雑固体廃棄物焼却設備より発生する焼却灰以外の放射性廃棄物	合計※2
2018年度(実績)	1,300	185,800	187,100
2019年度累積	1,900	185,800	187,700
2020年度累積	7,500	185,800	193,300
2021年度累積	64,700	185,800	250,500



※1: 大型機器除染設備から発生するブラスト材と増設雑固体廃棄物焼却設備から発生する焼却灰を含む

※2: 端数処理で100本未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

- 2019年度は、保護衣等を焼却した焼却灰が発生予定
- 2020年度、2021年度は、増設雑固体廃棄物焼却設備が運用開始予定のため、焼却灰の発生量が増加する予定